

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月30日

【評価実施概要】

事業所番号	3072200276
法人名	社会福祉法人 上秋津福祉会
事業所名	グループホームあきつの
所在地	和歌山県田辺市上秋津2310-178 (電 話) 0739-35-1010

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成20年9月24日	評価確定日	平成20年11月19日

【情報提供票より】(平成 20 年 7 月 7 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13 人	常勤 5 人, 非常勤 8 人, 常勤換算 5.7 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 平屋 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	8,000 円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 800 円		

(4) 利用者の概要(7 月 7 日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	5 名		
要介護3	0 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 88 歳	最低 78 歳	最高 98 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	あきつの診療所・矢田歯科
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

高速道南紀田辺からほど近い自然が豊かなところに立地し、地域福祉を担う社会福祉法人を母体としたグループホームです。法人は、老健、訪問看護、通所介護等を併設し、利用者間の交流が多くあり、ホームの利用者の生活の幅を広げています。ホームは木造平屋作りでリビングの天井は吹き抜けになっており、明るい陽が射し込んでいます。ホームでは、利用者に応じた役割や思いの実現に力を注いでおり、毎朝の掃除や犬の世話をまかせています。利用者と職員は温かい思いに満ち溢れた家族を作られています。利用者は併設施設の職員等多くの方たちに見守られながら過ごされています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価を受けて職員間で討議し課題に向けた取り組みを図っています。地域との関わりをより深めるため、地域向けお便りを作り、夏祭りやおやつ作りなどホーム行事へのお誘いをするなどホームを知ってもらおう努力を行っています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	自己評価票作成にあたっては職員間でよく話し合い作り上げています。前回の外部評価の内容と比較しつつ、改善課題の達成状況も含めてサービス内容の点検作業となったと考えています。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	利用者、家族代表、町内会代表、支援センター職員の参加を得て2ヶ月に一度開催して意見をサービスに活かしています。ホームからは、行事などの報告をし地域からも情報や意見をもらっています。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	家族の面会時や電話により積極的に意見や要望の収集を行い、職員間で共有し運営に反映させています。ホーム玄関には意見箱を設置し意見を表せる機会を作っています。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	若い住人の多い土地柄で、高齢者との交流が難しい状況もありますが、盆踊りに出向いたり、中学生の課外研修の受け入れをしています。夏祭り、餅つき大会などホームの行事には、広報誌にボランティア募集を掲載してもらったり、ホーム独自の地域向けお便りを出すなどの努力の結果、徐々に参加者が増えてきています。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念をもとに、グループホームとしての意義と役割を明確にし、「地域の中での安心、家庭的な環境での楽しい生活。」と、うたわれている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は介護の現場で行き詰った時はこの理念に立ち戻っている。申し送り時や会議で管理者は実例を通じて理念に基づいた考え方を話している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	若い住人の多い土地柄で、高齢者との交流が難しい状況もあるが、盆踊りに出向いたり、中学生の課外研修の受け入れをしている。夏祭り、餅つき大会などホームの行事には、広報誌にボランティア募集を掲載してもらったり、ホーム独自の地域向けお便りを出すなどの努力の結果、徐々に参加者が増えてきている。	○	自治会への参加は、若い年齢層の多い地域で取り組みとしては難しい局面もあると思われるが、地域との関わりに結びつく方法を更に検討され自治会参加の機会が得られるよう期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価票作成にあたっては職員間によく話し合い作り上げた。前回の外部評価の改善点を把握して取り組んでおり、家族にも評価の意義をよく説明し理解を得ている。特に地域との関わりを促すものであった課題については地域の行事への参加において改善されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族代表、町内会代表、支援センター職員の参加を得て2ヶ月に一度開催して意見をサービスに活かしている。ホームからは、行事などの報告をし地域からも情報や意見をもらっている。		

グループホームあきつの

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は市担当者とよく連絡をとり話し合いや相談の機会を持っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の日々の様子や新人職員の紹介、行事報告などを毎月「あきつの便り」で伝え、個人的な健康状態などの一言を添え報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪が多く、機会を見つけて苦情や意見の収集に努め、運営に反映させるよう職員に伝え検討している。言いにくい場合の対応として、ホーム玄関に意見箱を設置している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者が馴染みの支援を受けられるよう法人の職員はグループホームの利用者に声かけをしたり、イベントなどでも始終顔を合わせる機会も多く馴染みの関係ができています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の年間研修計画があり、出来るだけ職員の参加の機会を確保し、外部研修も交代で受講している。資料レジュメを回覧し、伝達研修も実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	和歌山県下のグループホーム連絡会で研修会や講演会に参加しており、管理者ネットワークが情報の交換や、困難事例相談など良好に機能している。交換研修は今年度は行われなかったが、来期に向けて検討中である。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	法人のショートステイや施設の利用、訪問や相談を重ね、本人が安心して利用できるよう、馴染んだ上での利用に繋げている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の得意分野を生かし、梅の産地ならではの梅漬けや、料理の仕方を教えてもらったり、縫物をお願いしたり、お茶会をしたりと経験に裏付けられた日々を共有している。日常的に困っている場面があれば、利用者はさりげなく助け合い、職員もゆったりと楽しく家族の一員として過ごしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用し、家族や本人に暮らしへの思いを記入していただき、希望や意向にそった援助に努めている。困難な場合は職員間でよく話し合い本人本位に作成している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の要望や思いを聞きケアプランに反映している。また職員が共有する利用者の日々の生活情報から、本人が求めていることを引き出し、それらを反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3カ月ごとにアセスメントを行い、状態の変化がある場合は、随時見直しをしている。日々の支援経過を職員が記録し、特記事項を含め職員会議などで話し合い管理者が仕上げている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の要望に沿い出来るだけこたえられるように、様々な方法で支援を行っている。買物や通院、お葬式への送迎など一人ひとりに合わせた支援がなされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望によってかかりつけ医を決めてもらっている。適切な指示や助言をしていただけ、ホームとの信頼関係を築きながら、相談に応じてもらえる医師の確保ができていますので、ホーム入居後、かかりつけ医を法人の協力医に変更される方が多い。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現時点ではターミナルケアの経験はないが、本人、家族の希望があればターミナルケアを行う予定である。また、重度化や終末期のあり方について、本人、家族、主治医と話し合い方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	家庭的な雰囲気心を掛けながら、言葉かけや対応に配慮し、プライドを傷つけないように努めている。書類は、事務所の鍵のかかるロッカーに保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースで生活が始まり、はり絵や陶芸、犬と共にくつろぐなど、それぞれのリズムに配慮しながら、本人本位の自由な時間を過ごしていただいている。		

グループホームあきつ

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と共に献立の相談をし、足りない食材やおやつを買いに出掛け、配膳下膳、片づけと職員と共に手分けして行い、なごやかな雰囲気ですべてを楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴が利用者本位に行われている。毎日入浴を希望する利用者や、ドクターのアドバイスで入浴が難しい入居者には寝る前の足浴を行うなど自在に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎朝の居室の掃除、犬の世話、おしぼりをたたむ等体力に応じた役割も決まってきている。隣接の老健の入所者との交流もあり、催しにも楽しく参加している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には畑や広場までの散歩に行かけ、時には弁当持参で遠出をしたり、日々の買い物に出かけている。普段外出しにくい入居者へは、犬の世話や玄関前の金魚の様子を見たり、隣接法人の施設に出向くなど支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中鍵をかけることはなく、安全面に配慮して自由な暮らしを支えている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	隣接の老健と合同で避難訓練をしている。ホームの訓練には地域の方の協力を得られるよう働きかけている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事を記録し、水分は積極的に摂取できるように配慮している。定期的に併設施設の管理栄養士に専門的な観点からチェックを受けアドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手作りの壁画があり、近隣の方からの差し入れの編み物が季節感いっぱい飾られている。所々に生けられた季節の花が吹き抜けの天井から注ぐ日の光に映え、犬と共に過ごす利用者の姿と共に居心地の良い空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は、自宅で愛用していた小物や飾り物、写真や人形などを持ってこられ、居心地良い居室作りに工夫されている。		